

# すくすく おっぱい通信 第37号

令和6年3月号 ~震災版No1~

令和6年元旦に能登半島大地震が起こりました。被災された皆様、ならびにそのご家族の方に心よりお見舞い申し上げます。近年色々な場所で災害が起きており、いつ災害に遭うかわからない状況です。東日本大震災から13年が経過しようとしており、もう1度災害時の避難場所と準備を確認しておく必要があるかと思います。今回は妊娠中～産後に災害時利用できる避難場所をご紹介します。

## <周産期福祉避難場所のご紹介>

妊婦、産婦及び乳児を要配慮者と捉えて、その心身や生活上の特性をふまえ、適切な支援を行なう事で、避難生活下で避難生活下での健康の維持など、災害時の母児の安心安全を確保する事を目的として設置するものです。仙台市では、市内の看護師養成施設と協定を締結し「周産期福祉避難所」として指定しています。

受け入れる対象者は、被災して指定避難所等での生活を余儀なくされた方のうち、指定避難所等での生活を続ける事が困難な妊産婦や乳児となっています。仙台市は以下の6か所です。

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| ①東北福祉大学 青葉区国見1丁目   | ④仙台徳州看護専門学校 太白区茂庭台          |
| ②東北文化学園大学 青葉区国見6丁目 | ⑤仙台市医師会看護専門学校 泉区八乙女         |
| ③仙台青葉学院短期大学 若林区五橋  | ⑥仙台医療センター附属仙台看護助産学校 宮城野区宮城野 |

⇒令和5年4月1日現在

※あくまで災害時に必要に応じて開設される二次的避難所であり、最初から避難所として利用する想定ではありません。

## <先輩ママ達の声>

東日本大震災の時赤ちゃんを育てていた経験のある当院スタッフに、当時の事をインタビューしました。

震災時3か月児

完母だったのでミルクの確保も必要なく、避難物品が少なくて済んだ。

震災時7ヶ月児

避難所に行ったら、学校の保健室に案内された。赤ちゃん連れの人が集まっていたので、同じ境遇の人が近くにいる安心できた。離乳食2回食だったが、食料が手に入らず母乳だけに戻した。出ているか不安だったが、赤ちゃんが満足そうにしていた事と、排泄の量がさほど減らなかったの、自分さえしっかり食べれば大丈夫なんだと思った。

震災時9か月児

オムツや衛生用品の売り切れが多く、ストックがあって良かったと思った。離乳食が始まっていたが食材が少なく焦ったが、授乳もしていたので、母乳をあげていて良かったと思った。

☆次回も震災特集が続きます。

5西病棟 広報担当

